

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の「想い」と自分らしさを大切に、心豊かな生活の提供に努めます。夢を諦めないをモットーに「こんな事が出来た！」というようなサプライズをご本人やご家族にお届けします。豊富な知識を持ったスタッフが、穏やかな日常生活を送って頂ける様にお手伝いをさせて頂きます。劇団白ネギ隊を通じ、認知症の啓発活動にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の職員で劇団「白ネギ隊」を結成して、市や福祉事務所の依頼を受け、地元住民に寸劇を通して、認知症の啓発活動を行っている。
一人ひとりの利用者に思いや意向を聞き、個別の介護計画を作成し、実践につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、廊下に掲示し常に見れるところに掲示している。又職員の名札に記載している。毎朝申し送り後に斉唱し理解に努め同じ方向性に努めている。	理念は、「安心して、暮らせるよう利用者の心に寄り添い、一人ひとりの尊厳を大切にします」と明文化され、目に触れる場所に掲示している。職員の名札の裏に記載し、日々、振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校の入学式、運動会、地域の行事に参加して交流を深めている。老人クラブの方と門松作りを行い交流を深める。	小学校の入学式に手作りのクッキーのプレゼントをしたり、地域住民や子どもたちに、寸劇を通して認知症の啓発活動を行い、オレンジリングを配布している。また、老人クラブの方と毎年、門松づくりやクリスマス会などで触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について正しい理解を広めていくことが必要と考えています。劇団を結成し地域に出向き啓発活動に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、提案された意見を参考に実践に繋げている。又、入居者の方に参加して頂いている。	2ヶ月に一度、推進会議を開催している。参加者の提案をもとに、「訪問診療」が導入された。当事業所は、男性の利用者が多く、推進会議にも出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の住民検診を受けて健康管理に努めている。定期的に発行する「やすらぎ便り」を行政、地域包括センターに配布している。運営推進会議に市役所介護保険課の担当者の方に参加して頂き意見を頂いている。	職員は劇団「白ネギ隊」を結成して、福祉事務所や市からの依頼を受け、寸劇を通して地元住民に認知症の啓発活動を行っている。また、市の住民健診を受け、健康管理に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を開催しており、拘束が発生する前にリスク課題を検討している。全職員が共有認識を図り、安全に配慮して拘束のないケアを実践している。	法人全体で委員会を作り、定期的に会議を開いている。専門職の会議の中で検討されたことは、事業所に伝達され、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の行動言動に対してお互いに意見出し合い、自己を振り返りながら日々のケアに努めている。		

事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深める様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアの考えと取り組みを丁寧に説明し、家族の不安と思うことを聞き取りしている。入院時居室使用同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを察知できるように努めている。玄関にご意見箱を設置し要望や苦情を伺っている。また年2回の家族会を開催し意見や要望を運営の反映に繋げている。	家族会を年に2回開き、家族の意向をもとに運営している。担当が日常の様子をノートや写真で確認できるようにしている。家族の意見が出やすい配慮がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、毎月の会議で職員の気づきや意見を自由に言える機会を作り聞き出せるように努めている。個人面談を実施している。	毎月の定例会議で気づきや意見を出してもらい、職員一人ひとりに発表してもらっている。また、年に2回、管理者は個人面談を行い、職員の意向や提案を聞き、働きやすい職場を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の抱えている問題等聞いてくださり向上を持って働けるよう環境に配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加させていただき、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分老施協所属のGH研修に参加させていただき意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が入居に対して不安を感じている時は要望を十分にお聞きし不安の軽減を図り信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがサービス導入までの経緯についてゆっくりお聞きしている。ご家族様が不安に思っている事を把握し、要望に応えられるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に思い、状況等を十分に確認しながら関係機関担当者等とも協議しあい、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋がられるように対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の大先輩であり生活歴等把握したうえで職員が情報を共有し利用者の「思い」に添って信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者様の暮らしの出来事や気づきを報告し施設での活動の写真と園だよりを送り情報の共有に努めている。ご家族様に対応方針を報告しながら納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人や知人、親戚など定期的に面会に来られる。	利用者がこれまで培ってきた馴染みの人や親せきの面会が途絶えないように声をかけている。家族とのつながりが保たれるように多くの行事に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共有場所で出来るレクや掃除、洗濯、食事の準備が一緒に出来る様、雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された方がいても関係機関との情報交換等行い定期的にお見舞いに行き、様子を伺った。お亡くなりになった方もおられ、お通夜、葬式にも参列させて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取り、把握に努めている。又、聞き取りの難しい方には昔得意だったことや趣味を実践し、シートに記入し本人本位の検討を行っている。ご家族にも意向を聞いている	思いや意向は、日々の触れ合いや会話の中で把握している。また、アセスメント用紙を通して情報収集をしている。昔、得意だったことなどを家族の面会時に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来る限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。ご家族参加のカンファレンスを開き、昔の事などを聞き、職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画書を各勤務者がチェックし現状把握するように努めている。又、新たな発見があった場合は職員全員が共有できるように伝達、スタッフミーティングで報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の職歴やこれまでの経験、得意な事を活かし入居者の方やご家族の思いが反映できるように心がけている。会議にて職員全員で担当の入居者の実践報告や意見交換を行い共有を図っている。	一人ひとりの思いや意向は、ケアカンファレンスを経て、介護計画書の中に実践しやすいように具体化している。実践記録をもとに定期的にモニタリングを行い見直しのプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、カンファレンス時に担当職員より実践状況を聞きそれを基に介護計画書の評価や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院等、必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付き添い等を行っている。		

事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行っている。又、地域の方にはグループホームを知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者ご家族の希望又、職員の判断の場合はご家族に連絡し受診を行っている。ご家族の付き添いが出来ない場合は職員が付き添いを行い、受診後は家族・職員間で情報共有を図っている。往診を行っている。	認知症専門医の物忘れ外来や眼科・循環器など、数多くの医療機関と連携をとり受診支援を行っている。家族の付き添いが少ないため、管理者が殆どの利用者に付き添い、かかりつけ医に日々の様子を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等の支援を受け入れられるように体制をとっている。又、日頃より連携を図り入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中、職員はGHIにて生活が続けられるように定期的に面会を行い、入院中の生活状況が把握できるように対応している。又、想起の退院が出来るようにご家族の意向を含め入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し記録として残している。又、退院後等定期的に意向の把握を行っている。	重度化や看取りケアについて、早い段階で家族の思いを聞いている。病院より退院された場合は、再度、家族に意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で避難訓練を行い1回は夜間想定で火災訓練を行っている。月1回施設内で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。災害時の備蓄を行っている。	火災を想定して、年に2回、消防署の指導のもと訓練をしている。夜間の災害訓練も行っており、備蓄もある。昨年の目標達成シートに災害時の対応を掲げ、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報が漏れないよう個々の情報は外部の目に触れない所に保管している。排泄誘導の際の声かけはその方の耳元で小声で行っている。入浴や着脱の際は人目に触れないよう戸を完全に閉めて対応している。	一人ひとりの情報はアセスメントシートに詳細に記載されていて、漏れないように保管されている。排泄時や入浴時は特に恥ずかしくないように誘導の声かけや対応に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や日常生活の中で個々の行きたい所やしたい事を聞き取ったり感じとり希望にそった外出やレクリエーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の体調や気持ちを尊重しその方らしい生活が送れるように個別に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服等本人様を選べるよう配慮し、個々の尊重を図る。レクリエーションではエステを取り入れ、女性では外出される際は化粧され、整容にも力を入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の体調や嚥下状態に気をつけながら共に作り提供している。季節の食材を使用したり食べたい物を聞き取りし毎週一回喫茶店・レストランをして楽しい時間を過ごせるよう心掛けている。	地元の新鮮な魚や野菜を使用した献立である。利用者の意見をもとに、和洋食のバイキングにしたり昼食を定期的にテーブルの雰囲気を変えたレストラン風やカフェにするなどの工夫をしている。運動会や外出時はお重の手作り弁当である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を日々記録・観察し全職員と共有している。少ない方には個別に提供している。水分は毎食時の他10時15時に水分の内容を変え飽きないように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、個々の能力に応じた介助・見守りを行いその都度、口腔内の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録し全職員で情報共有し、排泄パターンの把握に努め声掛け・トイレ誘導を行なっている。その方に応じた排泄物品を使用している。	一人ひとりの排泄パターンに沿って、トイレ誘導をしている。排泄の自立を目指し、できるだけ、おむつ使用は避けている。布パンツや自立の利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝起きられたら牛乳を毎日一杯提供し、おやつするときなどバナナを提供している。排泄時には腹部マッサージをするなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人に合った時間に入浴していただいている。声掛けをしっかりとし、気持ちが良かったと言っていたり配慮している。	入浴は利用者の希望を聞き、毎日入る・週2回・週3回など個別ケアに取り組んでいる。又、散髪の日には朝から入浴が出来るようにしている。機器による入浴設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方からアロマ音楽を流し、入眠を促す。眠れないときは、温かいお茶を提供し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間でお互いに服薬する方の確認をし、服薬後もその場を離れず、飲み込みの確認をしてから離れるように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調等に合わせながらご本人様の得意な事、趣味などをレクリエーションに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日やご希望された事、場所などに出かけられる。季節を感じていただけるように定期的に外出を行っている。	歩行訓練を兼ねた買い物や庭園での日向ぼっこ、庭掃除、犬の散歩など目的志向の外出支援である。また、湯布院温泉の一泊旅行は、事前に障害者用の設備の整った宿を調べ、旅を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はご本人様に安心していただけるように、ご家族の協力を得て少額のお金を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方に年賀状などを送られている。ご希望がある場合には電話をかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を感じて頂けるように、季節の飾り付けを頻繁に行い、行事・外出があった際はその写真をすぐに飾り、思い出づくりに努めている。家庭で過ごしているような雰囲気づくりや居心地良く過ごして頂けるよう環境づくりに努めている。	季節感を感じて頂けるようにと、四季折々の飾りつけの配慮がある。又、外出や行事の写真を掲示し、会話が進み、家庭で過ごしているような雰囲気づくりがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読まれている方やテレビをゆっくりみられるようにソファを設置している。料理を好まれる方には、皮むきや米研ぎをして頂いている。台所での作業が難しい場合は、テーブルにて行って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されておられた家具や寝具を使用し、家族の写真や季節感のある飾り付けをし、安心して暮らして頂けるように配慮を行い、換気や加湿にも気を配り環境づくりに努めている。	使い慣れた家具や家族の写真・好みの新聞や本、テレビ、洋服など、一人ひとりの生き方が見えてくる部屋づくりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、「トイレ」と書いた張り紙をし、トイレ内にも「手を挟まないように気をつけて下さい」との張り紙をすることにより、注意を呼び掛けている。また物の配置にも気を配り、危険防止の為に環境整備に努めている。		